

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 5 月 13 日現在

機関番号：32611

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25350294

研究課題名(和文) 英語力下位層を対象とした思考力を育成する英語学習プログラムの開発

研究課題名(英文) English Language Program Development in Building Cognitive Skills for Japanese College Students of Lower English Proficiency

研究代表者

中西 千春 (Nakanishi, Chiharu)

国立音楽大学・音楽学部・教授

研究者番号：30317101

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、英語力下位層の学生のために、英語力と思考力を統合して育成する英語学習プログラムを開発することである。そのために、内容・言語・思考・協学を統合して教えるCLILにおけるヨーロッパの中学・高校での現地調査を行った。研究により、学生の思考を促す教師の発問が重要であることが導かれた。教師が学生の思考を促す枠組みとして、「ブルームの教育目標の改訂版」の活用を提案する。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to develop an English learning program to integrate and develop English proficiency ability and cognitive skills for college students of lower English level. We conducted a field survey on what kind of cognitive skills were being developed in junior and senior high schools in Europe in the CLIL which integrates teaching Contents, Language, Cognition, and Community. At the beginning of the study, we were aiming to create texts in simple English on topics of the students' interests, but as the research progressed, we recognized that it is important for the teachers to ask questions to encourage students' cognition regardless of text. Therefore, we suggest that teachers should understand and use a revised framework of Bloom's taxonomy of educational objectives, especially the taxonomy table and subcategories of educational objectives, in order to improve students' cognitive skills.

研究分野：教育工学，科学教育，英語教育

キーワード：英語力下位層 思考力 英語力 CLIL(内容言語統合)型学習 発問 ブルームの改訂版の教育目標

## 1. 研究開始当初の背景

近年、高等教育においては、「21世紀型スキル」のひとつとして思考の方法（創造性・批判的思考・問題解決・意思決定・学習能力・メタ認知）を育成すること、大学のユニバーサル化・質保障への対応という観点から、ジェネリックスキルのひとつである情報を集め構成し問題解決を行う「思考スキル」を育成することが求められている。中央教育審議会の答申『学士課程 教育の構築に向けて』（2008）では、「改革の方向」として「当該大学の教育理念や学生の実態に即して、各項目の具体的な達成水準などを主体的に考えていく」（p.11）ことが示されている。こうした背景から、英語力下位層を対象とする授業においても、思考スキルを育成することが求められる。なお、本稿では、思考スキルと、思考力および思考プロセスを同義に用いる。

思考力の育成を意識した外国語教育（English as Foreign Language）には、Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習：以下CLIL型学習）がある。CLIL型学習の実施の背景には、欧州連合（European Union）の言語政策がある。欧州理事会（European Council）は、2002年のパルセロナ会議において、「欧州市民が母語に加えて2つの外国語の早期から学ぶことで基本的なスキルをマスターすること（mastery of basic skills, in particular by teaching at least two foreign languages from a very early age）」を議長総括（Presidency Conclusions）として取りまとめた。これを受けてEU加盟国の学校では、教授法/学習法のひとつとして、教科を非母語で学ぶことにより教科内容とことばを統合して学ぶCLIL型学習が取り入れられるようになった。CLIL型学習は、教科内容を非母語で教えながら、内容の理解を重視するとともに、思考力の育成に力を注いでいる（Dalton-Puffer 他, 2010; Mehisto 他, 2008）。EU加盟国においては、一般的な学校の初・中等教育にCLIL型学習が取り入れられており、ヨーロッパの教師はCLIL型学習をエリートだけに有効な教育とは捉えていない（中西他, 2012）。そこで、CLIL型学習のテキスト開発者、教師のCLIL型学習に対する考え方、そして、必ずしもエリートでない生徒たちのCLIL型学習への認識について探ることは、日本の英語力下位層向けの授業デザインをする上で重要なことである。

他方、現在、出版されている大学生向けの英語力下位層対象のテキストには、どのようなものがあるだろうか。近年、学生の英語力の低下に伴い、英語力下位層向けに、基礎英文法、オーラルコミュニケーション、リーディングなどの分野で多くの英語教材が出版されている。これらのテキストは、文法と語彙の習得に焦点があたっており、発

問は事実関係を尋ねるものが主である。一方、上位層向けには、オーセンティックな英文を使ったクリティカルリーディング、ディベート、ディスカッション、プレゼンテーションなどのテキストがあり、英語で何らかの活動をしながら、思考に働きかけているものが多い。英語力下位層を対象とする場合には、上位層対象のようにバラエティのある思考を促すことはできないのだろうか。この点について、テキストの発問を調査するとともに、教師がどのような発問をしているかを探る必要がある。

## 2. 研究の目的

本研究は、英語力下位層の学生を対象とした英語力と思考力を統合して育成する英語学習プログラムを開発するための基礎研究である。

## 3. 研究の方法

CLIL型学習における思考力育成の実態調査

内容と言語とともに、協学、思考力の育成を統合して教えるCLIL型学習においての思考力育成をヨーロッパの中学高校で現地調査、CLIL型学習の教材開発者、教師インタビュー、日欧で生徒アンケートを行った。

英語力下位層向けのリーディングテキストの調査

下位層向けのリーディングテキストの発問、教師の発問、そして、授業法について考察した。

思考を促すフレームワークの活用

この研究を進める中で、思考力を促すプログラムを開発するためには、思考力の要素を知ることが非常に重要であることを認識した。そこで、思考力の要素を分類するフレームワークとして、ベンジャミン・ブルームの弟子のアンダーソンらが作ったブルームの改訂版の枠組みを活用した（以下、ブルームの改訂版）。英語教育における教材と教師の発問に加えて、音楽の演奏レッスンにおける教師の発問とレッスン分析に、ブルームの改訂版を活用し、その利点と限界を論じた。

Anderson, L.W. & Krathwohl, D.R.

(Eds.) (2001) A Taxonomy for Learning, Teaching, and Assessing: A Revision of Bloom's Taxonomy of Educational Objectives. (Abridged Edition) New York: Longman.

## 4. 研究成果

CLIL型学習

スペインバスク自治州ではCLIL型学習が成功していると言われる（Kelly, 2007）。本研究では、バスク自治州における5つの中学校の7つの授業を実地調査（2014年2月）及びCLIL教材開発者であるPhil Ball

氏と教師5人のインタビューから得た知見と成功要因をまとめた。BallはCLIL型学習の特徴は「英語よりも内容を重視する。中身のある内容を理解させるために、教材デザインを入念に行う。本物のコミュニケーションの場を設け、高次の思考が必要なタスクに協同学習で取り組ませる。」と述べている。授業視察をしたSoft / Hard CLIL型学習のクラスの様子を6つの観点(教材:インプットの種類, アクティビティ数, 生徒間のインタラクティブな活動の機会, アウトプットの機会, 認知プロセスの領域, 自己・他者・異文化への気づき)から分析した。この結果, CLIL型学習のクラスに共通していたのは, 科目内容を英語で教えることであり, 教師によってコミュニケーション力や思考力の育成の取り組み方が異なることがわかった。

実地調査を通じて, CLIL型学習, 特にSoft CLIL型学習の課題が明らかになった。それは, 教材の質問・アクティビティのデザインと教師の力量の問題である。この問題を解決するためには教材開発と教師養成を進めていくことが重要である。Soft CLILの授業で英語教師が科目を教える場合には, 専門知識の不足(例えば自然科学)が問題となるが, 豊かなインプット(紙媒体のテキストやインターネット上のオーセンティックなビデオ教材など)と, 幅広い認知プロセスの領域を必要とする協同学習を含んだ質問とアクティビティがあれば, 英語教師の専門知識不足はカバーすることができる。また, 教師が随時, 適切な発問やアクティビティを作ることができれば, 教材の不十分な点をカバーすることができる。アクティビティを作成する際には, 幅広い認知プロセスの領域を含めることが重要であり, 教育学の専門家の協力が欠かせないと思われる。

Ballは, CLIL型学習が英語力下位層の学習者の有効な手段になりうると述べている。語学習得だけに焦点をあてたり, 検定試験の準備をしたりするクラスでは, 下位層の学習者は最初の段階から逃げ腰になる。従来のEFL型学習では, 英語力下位者はつねに下位になる傾向があるので, CLIL型学習を導入することにより, 内容に焦点をあて, アクティビティで身体を動かしながら学ぶことで, 学習者が内容を記憶に残す可能性にかけた方がよいというのがBallの意見である。

Ballの意見から日本の大学の英語力下位層対象の授業に対して, 得られた示唆は次の点である。日本の英語教育では, 語学習得や検定試験に焦点を当てる傾向がある。しかし, 内容に焦点を当てたり, アクティビティ作成の考え方を柔軟にしたりすることで, 学習者の英語学習の取り組み方, および英語力に変化をもたらす可能性があるかもしれない。他方, バスク自治州では, 中学校を卒業するまでにCEFRのB1レベルに到達することを目指している。生徒のレベルはA2

レベルである。日本の英語力下位層は, A1レベル, もしくは, プレA1レベルと言えよう。このため, CLIL型学習導入により, バスク自治州の中学生に到達できることでも, 下位層学生ができるとは限らないことにも留意すべきであろう。

英語力下位層向けのリーディングテキスト

英語力下位層向けのテキストは, 文法とコミュニケーション(英会話)を中心に, 英語という言葉の習得のみに焦点を当てる傾向がある。英語学習ではリーディングが必須であるため, テキストには, 下位 - 上位層向けがある。そこで, 大学英語教材の出版社として著名なA社から初級リーディング教材として出版されている3冊のテキストを分析し, テキストの傾向を探った。3冊に共通するのは, プレとメインリーディングに対する発問がなく, ポストリーディングのみだったことである。この3冊の発問でどのような思考力育成をしているかを, ブルームの改訂版の6つの認知プロセスと19のサブカテゴリーに分類した。読解の発問は3冊で計240問あったが, そのうち191問の79.56%が, Remember: Recognizingに属し, 次がUnderstand: Interpreting(10.83%)に属する和訳であった。発問が6つの認知プロセスのうち, RememberとUnderstandという低次の思考力にのみ偏っているのみでなく, サブカテゴリーのRecognizingとInterpretingに偏重が見られた。答えを本文から抜き出すRememberの中のRecognizingをする発問を主にするのは, 授業が単調になる可能性が高い。もし, 教師が改訂版のサブカテゴリーを理解すれば, リーディングのUnderstandを目指す授業においても, Understandの下位にある7つのサブカテゴリーの「例をあげる, 要約をする, 図やイラストを描く, 比較する」などの問題を出すことが可能となる。これにより, 授業を活性化し, 学生の思考力育成の可能性を高めることができるのではないか。近年は, 大学によってテキストが指定され, 教師は指定されたテキストの発問の一部を選択したり, すべてを使用する傾向にある。教師の発問取捨選択力と新たな発問作りの力が, 学生の思考力育成につながると考えられる。

思考力を分類するための枠組み

思考力を分類するための枠組みとして, 「ブルームの改訂版」(Anderson et al., 2001)を活用した。これまでの思考力の研究では, ブルームの改訂版を使って, 試験の問題や教師の発問の分類がされたり, 教育目標や評価の指標として使われてきた。これは, ブルームの改訂版の枠組みを使うことで, 教師が学生に期待している思考力のレベルを測定できると考えられているからである。改訂版の意図は, より多くの教師が教育にタキソノミーを活用することにある。しかしな

がら、日本語訳や日本語で書かれた解説がないため、活用や引用が不正確で、原著にあたっていないと思われる文献がある。そこで、「認知プロセス領域の分類」を日本語で解題し、日本の教師や研究者が、教育目標・活動の開発・評価の指標および授業デザインに活用しやすくすることを目指した。また、筆者の勤務する音楽大学の4つの科目(声楽・ピアノ・音楽療法・英語)において、どのような思考力が育成されているかについて調査をするとともに、教師の発問モデルを作成した。この結果、科目により求める認知プロセスの領域は異なるが、どの科目も Evaluate, Create への働きかけが少ないことが明らかになった。さらに、改訂版の2次元のタキソノミーテーブル(知識次元と認知プロセス領域)の普及を目指すとともに、タキソノミーテーブルにより声楽レッスンとオペラ指導を可視化し、解明を試みた。指導要素の明確化は、声楽レッスンおよびオペラを学ぶために必要な知識次元と認知プロセスの要素間の関係を再構築した。ブルームの改訂版の活用は、教師に新たな視点から自らの指導を見直すチャンスを与え、指導の解明の糸口となると考えられる。

## 5. 主な発表論文等

### (1) 実地調査

中西千春: イギリスのノリッジ“Norwich Institute for Language Education (NILE, www.nile-elt.com)”にて CLIL Teacher Training コース受講(2013, July-Aug)

中西千春: イタリアのサルディニアの工業高校における CLIL 型学習による英語集中講座の実地調査(2014, February)

中西千春, 中西穂高, 若山昇: スペインのバスク自治州において, Ikastola というバスク文化とバスク語を復興させるための半官半民の5つの中学校の7つの教室における CLIL 型学習による授業の実地調査(2014, February)

中西千春: 東京都渋谷区立松濤中学校におけるパーソナルイマージョンによる音楽授業の実地調査(2014, February)

### (2) 主な発表論文等

[雑誌論文](計20件)

中西千春(2014)「英語力下位層を対象とした CLIL(内容言語統合)型学習の可能性, CLIL 型学習教材開発者 Phil Ball 氏の著述とインタビューから」, 『国立音楽大学研究紀要』, 第48集, pp. 93-104.

中西千春, 塩原麻里, 本島阿佐子, 金子恵(2014)「音大生の学びをアクティブにする試み」, 『国立音楽大学研究紀要』, 第48集, pp.105-116.

Chiharu Nakanishi & Hodaka Nakanishi (2014) Students' Perception towards Soft CLIL in the Basque Secondary Schools, The 2014 International Conference on

e-Learning, e-Business, Enterprise Information Systems, and e-Government, EEE '14, Proceeding, pp.3-8. (査読有)

若山昇, 梶谷真司, 渡辺博芳, 赤堀侃司(2014)「クリティカルシンキング教育の現状と課題 -大学における授業実践者の視点から-」, 『帝京大学ラーニングテクノロジー-開発室年報』Vol. 11, pp.85-94.

中西千春(2015)「バスク自治州における言語教育と CLIL 型学習の実践 -中学校授業視察に基づいて-」, 『国立音楽大学研究紀要』, 第49集, pp.93-104.

中西千春, 蔭山真美子, 進藤郁子, 本島阿佐子(2015)「フィードバックで人を伸ばす -音楽を学ぶ人を対象に-」, 『国立音楽大学研究紀要』, 第49集, pp.105-116.

Chiharu Nakanishi & Hodaka Nakanishi (2015) Assessment of Scoring Content and English in the first CLIL Project at a High School in Sardinia, The 2015 International Conference on e-Learning, e-Business, Enterprise Information Systems, and e-Government, EEE '15, Proceeding, pp.92-97. (査読有)

Chiharu Nakanishi & Asako Motojima (2015) An Analysis of Music College's Vocal Lessons by the Bloom's Revised Taxonomy, 2015 The 4th Hong Kong International Conference on Education, Psychology and Society Higher Education Forum, Proceeding, pp.556-563. (査読有)

Sannomiya, M. & Ohtani, K. (2015) Does a dual-task selectively inhibit the metacognitive activities in text revision? Thinking Skills and Creativity, Vol.17, pp. 25-32. (査読有)

中西千春, 本島阿佐子, 進藤郁子, 蔭山真美子(2016)「音楽大学における思考力育成についての予備的調査」, 『国立音楽大学研究紀要』, 第50集, pp.127-138.

中西千春(2016)「ブルームのタキソノミー改訂版『認知プロセス領域の分類』を活用するために」, 『国立音楽大学研究紀要』, 第50集, pp.115-126.

Chiharu Nakanishi & Hodaka Nakanishi (2016) How do Students Think about Soft CLIL in the Basque Secondary Schools? Asian Journal of Education and E-Learning (ISSN: 2321 - 2454) Vol 4, No1 [http://ajournalonline.com/index.php?journal=AJEEL&page=article&op=view&path\[\]=3504&path\[\]=1890](http://ajournalonline.com/index.php?journal=AJEEL&page=article&op=view&path[]=3504&path[]=1890) (査読有)

Chiharu Nakanishi & Asako Motojima (2016) Using the Bloom's Revised Taxonomy to Analyze the Teacher's Description of Cognitive Skills in Music College's Vocal Lessons, International Journal of Educational Science and Research (IJESR) ISSN (P): 2249-6947; ISSN (E):

2249-8052, Vol. 6, Issue 1, pp.93-100. (査読有)

Chiharu Nakanishi & Hodaka Nakanishi (2016) Japanese Junior High School Students' Perception toward English and Soft CLIL -A Case Study at Shoto Junior High School in Tokyo- The 2016 - The 16th International Conference on e-Learning, e-Business, Enterprise Information Systems, and e-Government EEE ' 16, Proceeding, pp.28-34. (査読有)

若山昇, 大浦宏邦, 長谷川成海, 植野真臣 (2016)「クリティカルシンキングに対する志向性に関する検討」, 『情報文化学会誌』 23 巻 2 号, pp. 43-50. (査読有)

若山昇, 大浦宏邦, 長谷川成海, 植野真臣 (2016)「クリティカルシンキングに対する志向性について」, 『教育テスト研究センター年報』 第 1 号, pp.40-42. (査読有)

三宮真智子 (2016)「判断の歪みを生む不適切なメタ認知的知識を問い直す」大阪大学大学院人間科学研究科紀要, 42, pp. 235-254.

Sannomiya, M. & Yamaguchi, Y. (2016) Creativity training in causal inference using the idea post-exposure paradigm: Effects on idea generation in junior high school students. Thinking Skills and Creativity, 22, pp.152-158. (査読有)

中西千春, 松原有奈 (2017)「ブルームの改訂版『タクソノミーテーブル』をオペラ指導に活用する」, 『国立音楽大学研究紀要』, 第 51 集, pp.101-112.

中西千春, 本島阿佐子, 堀江志磨, 進藤郁子他 (2017)「音楽大学におけるグループレッスンの分析 - 学生の思考に働きかける - 」, 『国立音楽大学研究紀要』, 第 51 集, pp.249-270.

[学会発表](計 26 件)

間中和歌江, 中西千春 (2013 年 8 月)『考える』英語の授業-グローバル人材の育成を支える教材開発」JACET 第 52 回国際大会特別企画ポスターセッション, 京都大学吉田キャンパス (京都)

若山昇, 梶谷真司, 渡辺博芳, 上名主巖, 赤堀侃司 (2013 年 9 月)「クリティカルシンキング教育の展開」2013 年日本教育工学会第 29 回全国大会講演論文集 pp.795-796. 秋田大学 (秋田)

中西千春, 中西穂高, 若山昇 (2014 年 6 月)「スペインバスク地方の CLIL 型学習からの日本の大学英語教育への示唆」大学教育学会第 36 回大会講演論文集 pp.210-211. 名古屋大学 (名古屋)

Takashi Tachino, Yuuki Kato, Shogo Kato, Noboru Wakayama (2014, June) Assessment of a Business Gaming Practice in University based on the Attitude Modification, EdMedia 2014 - World

conference on Educational Media and Technology, Tampere, Finland, pp.1645-1650. (フィンランド)

中西千春 (2014 年 6 月)「バスク自治州 (スペイン) における CLIL 型学習の実践から学ぶ: CLIL 型学習ワーク ショップ」JACET 九州支部東アジア英語教育研究会, 西南学院大学 (福岡)

中西千春 (2014 年 6 月)「イタリア工業高校における初の CLIL 型学習集中講座から学ぶ」JACET 関東支部大会第 8 回大会, 青山学院大学 (東京)

Chiharu Nakanishi & Hodaka Nakanishi (2014, July) Students' Perception towards Soft CLIL in the Basque Secondary Schools, The 2014 International Conference on e-Learning, e-Business, Enterprise Information Systems, and e-Government, EEE ' 14, Las Vegas, USA. Proceedings pp.92-97. (アメリカ)

山口洋介, 三宮真智子 (2014 年 9 月)「アイデア生成過程における系列位置と創造性 (2) テキストマイニングを用いた分析」日本心理学会第 78 回大会発表論文集, p. 886. 同志社大学 (京都)

中西千春 (2015 年 3 月)「英語リメディアル教育における『考える・伝える』力の育成」日本リメディアル教育学会 第 7 回関西支部大会, 関西外国語大学 (大阪)

山口洋介, 三宮真智子 (2015 年 3 月)「拡散的思考課題の解答に関するカテゴリ抽出手法の体系化の試み」知識共創, 5, V 8 -1. (<http://www.jaist.ac.jp/fokcs/>) 金沢勤労者プラザ (石川)

Chiharu Nakanishi & Hodaka Nakanishi (2015, July) Assessment of Scoring Content and English in the first CLIL Project at a High School in Sardinia, The 2015 International Conference on e-Learning, e-Business, Enterprise Information Systems, and e-Government, EEE ' 15, Las Vegas, USA. Proceedings pp.92-97.

山口洋介, 三宮真智子 (2015 年 8 月)「大学生における創造観とアイデア生成の関連性 (2) - 思考の柔軟性の側面に着目して - 」日本教育心理学会第 57 回総会発表論文集, p.386. 朱鷺メッセ (新潟)

中西千春, 間中和歌江 (2015 年 8 月)『考える・伝える力』を育てる大学英語授業ワークショップ」, JACET 大学英語教育学会 第 54 回国際大会講演論文集 p.69. 鹿児島大学 郡元キャンパス (鹿児島)

本島阿佐子, 進藤郁子, 蔭山真美子, 中西千春 (2015 年 9 月)「音楽大学で思考力はどうのように育成されているか」, 日本教育工学会第 31 回全国大会講演論文集 pp. 513-514. 電気通信大学

中西千春 (2015 年 11 月)「思考力を育成する英語リメディアル授業を目指して」, 日

本リメディアル教育学会 第4回 関東・甲信支部大会講演論文集 p.14-15. 江戸川大学(千葉)

Chiharu Nakanishi & Asako Motojima (2015, December) An Analysis of Music College's Vocal Lessons by the Bloom's Revised Taxonomy, The 4th Hong Kong International Conference on Education, Psychology and Society Higher Education Forum, Hong Kong. Conference Proceedings pp.556-563.

中西千春(2016年7月3日)「バスク自治州の中学生の CLIL 型学習に対する認識」, JACET 大学英語教育学会関東支部第10回記念大会講演論文集 pp.82-83. 早稲田大学(東京)

Chiharu Nakanishi & Hodaka Nakanishi (2016, July 27th) Japanese Junior High School Students' Perception toward English and Soft CLIL -A Case Study at Shoto Junior High School in Tokyo- The 2016 - The 15th International Conference on e-Learning, e-Business, Enterprise Information Systems, and e-Government EEE '16, Las Vegas, USA. Proceeding pp.28-34. (アメリカ)

中西千春(2016年8月24日)「授業デザイン・分析にブルームのタクソノミーの改訂版『認知プロセス領域の分類』を活用する」, 日本リメディアル教育学会, 第12回全国大会講演論文集 pp.172-173. 大阪国際大学(大阪)

間中和歌江(2016年8月)「共同学習を用いた初年次英語教育 学習態勢づくりと退学休学防止のために」日本リメディアル教育学会, 第12回全国大会講演論文集 pp.112-113. 大阪国際大学(大阪)

21 中西千春(2016年9月2日)「CLIL 型学習に対する中学生の意識調査」, JACET 大学英語教育学会, 第55回国際大会, 北星学園大学(北海道)

22 中西千春, 進藤郁子, 堀江志磨, 松原有奈(2016年9月19日)「IR: 音楽大学における思考力育成実態調査を通してのレッスン改善」, 日本教育工学会 第32回全国大会講演論文集 pp.33-34. SIG-01 高等教育 FD の取り組み, 大阪大学豊中キャンパス(大阪)

23 山口洋介, 三宮真智子(2016年9月19日)「ICTは創造性教育にどのように寄与しているのか?」日本教育工学会第32回全国大会講演論文集, pp. 779-780. 大阪大学豊中キャンパス(大阪)

24 中西千春(2016年12月3日)「教師の思考力育成分析に基づいたFD方法の提案」日本リメディアル教育学会 第1回 東北支部大会, 桜の聖母短期大学(福島)

25 安藤香織, 中西千春(2017年2月11日)「英語初級リーディング教材の発問は思考力を育てているか ブルームの改訂版 認知プロセスのサブカテゴリーを使って」日本リ

メディアル教育学会 第5回 関東・甲信支部大会, 大会講演論文集 pp.40-41. 神田外語学院(東京)

26 中西千春, 山本真由美(2017年2月11日)「音楽のレッスンスタディ: 認知プロセス Apply を考えるブルームの改訂版認知プロセスの分類を使って」日本リメディアル教育学会 第5回 関東・甲信支部大会, 大会講演論文集 pp.12-13. 神田外語学院(東京)

〔図書〕(計4件)

若山昇(2013)『誰でもわかるクリティカルシンキング - それってホント?』北樹出版, 全152頁

中西千春編著(2016)『音楽大学のグループレッスンにおける思考力育成の取り組み』飛鳥井出版, 全170頁

中西千春(2017)『英語力下位層を対象とした思考力を育成する英語学習プログラムの開発』飛鳥井出版, 全90頁

三宮真智子, 山口洋介(2017)「思考のパフォーマンスを高める: 思考とメタ認知」鹿毛雅治編著『パフォーマンスがわかる12の理論: 創造と達成の心理学入門』金剛出版

三宮真智子(2017)『誤解の心理学 コミュニケーションのメタ認知』ナカニシヤ出版

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中西千春(NAKANISHI, Chiharu)  
国立音楽大学・音楽学部・教授  
研究者番号: 30317101

### (2) 研究分担者

中西穂高(NAKANISHI, Hodaka)  
帝京大学・知的財産センター・教授  
研究者番号: 00567399

三宮真智子(SANNOMIYA, Machiko)  
大阪大学・人間科学研究科・教授  
研究者番号: 90170828

若山昇(WAKAYAMA, Noboru)  
帝京大学・法学部・准教授  
研究者番号: 90439589

間中和歌江(MANAKA, Wakae)  
武蔵野大学・人間科学部・准教授  
研究者番号: 50386794